

国家戦略特区WGヒアリング 説明資料

(議題「入管業務の地方・民間への移管」関係)



平成27年9月24日

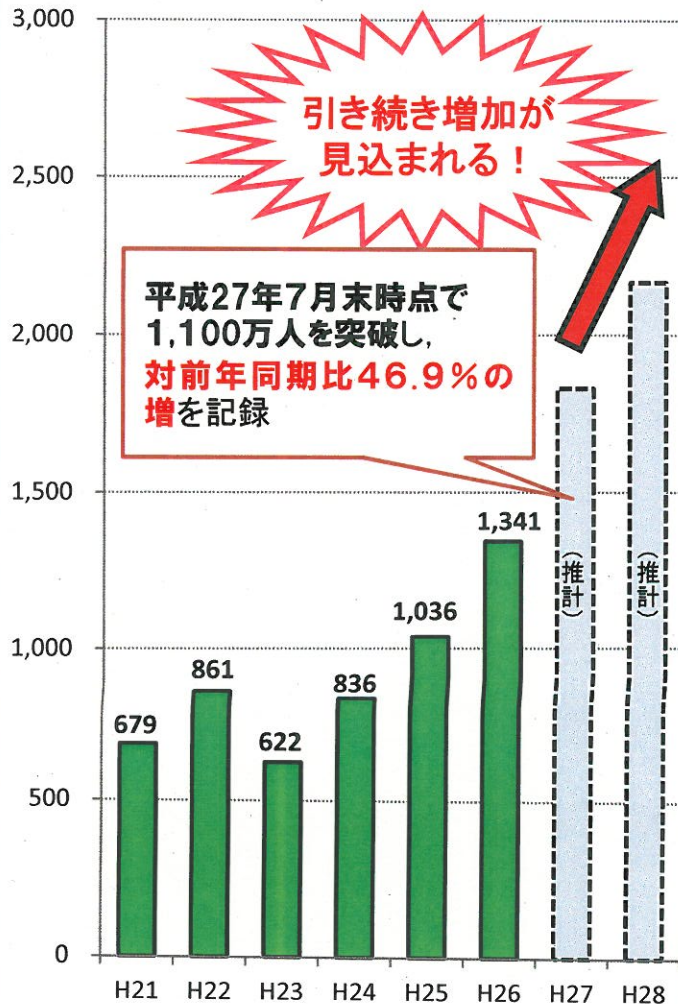
法務省入国管理局

円滑かつ厳格な出入国管理体制の整備



訪日外国人旅行者数

(単位:万人)



◎観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015

(平成27年6月5日観光立国推進閣僚会議決定)

- ・ 空港での入国審査に要する最長待ち時間を20分以下に短縮することを目指す
- ・ 「クルーズ100万人時代」実現のための受入環境の改善

◎「日本再興戦略」改訂2015

(平成27年6月30日閣議決定)

- ・ 2020年に向けて、訪日外国人旅行者数2,000万人を目指すとともに、2030年には3,000万人を超えることを目指す
- ・ 訪日外国人旅行者の増加に対応し、外国人旅行者が我が国への出入国を迅速かつ円滑・快適に行えるよう、地方空港・港湾における出入国審査の状況も十分考慮して、CIQに係る必要な物的・人的体制の整備を進める

◎経済財政運営と改革の基本方針2015

(平成27年6月30日閣議決定)

- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、出入国管理の計画的な体制整備を着実に進める
- ・ 良好な治安を確保するため、水際対策を含めたテロ対策、不法滞在対策等を引き続き講ずる

◎邦人殺害テロ事件等を受けたテロ対策の強化について

(平成27年5月29日国際組織犯罪等・国際テロ対策推進本部決定)

- ・ 地方空港も含めた速やかな人的・物的基盤の整備・強化等に努め、偽変造文書対策の強化等出入国審査体制の強化を図るとともに、関係省庁との連携の下、顔画像照合機能の活用を検討する

入国管理局の人的体制の整備について



職員数の推移

年度	入国審査官	入国警備官	法務事務官 ・技官	合計(人)
21	1,737	1,564	264	3,565
22	1,881	1,564	269	3,714
23	1,979	1,571	273	3,823
24	2,050	1,562	269	3,881
25	2,089	1,531	265	3,885
26	2,204	1,500	265	3,969
27	2,414	1,459	272	4,145

平成27年度緊急増員(入国審査官35人)

- 外国人入国者が急増し、審査待ち時間の長時間化が顕著になっている地方空港に配置(入国審査官15人)
函館港出張所(函館空港)3人、静岡出張所(富士山静岡空港)3人、金沢出張所(小松空港)2人、長崎出張所(長崎空港)4人、大分出張所(大分空港)2人、宮崎出張所(宮崎空港)1人
- 審査機動班を拠点官署に設置し、機動的・効率的に派遣・運用(入国審査官20人)
大阪入国管理局10人、福岡入国管理局10人

平成28年度増員要求事項(279人)

円滑化・迅速化
出入国審査手続の

- 主要空港における出入国審査業務の充実強化(入国審査官158人)
成田空港支局(成田空港)24人、羽田空港支局(羽田空港)24人、中部空港支局(中部空港)13人、関西空港支局(関西空港)74人、千歳苫小牧出張所(新千歳空港)8人、那覇空港出張所(那覇空港)15人
- 地方空海港における出入国審査業務の充実強化(入国審査官22人)
函館港出張所(函館空港)3人、青森出張所(青森空港)2人、仙台空港出張所(仙台空港)2人、水戸出張所(茨城空港)1人、新潟出張所(新潟空港)2人、富山出張所(富山空港)3人、岡山出張所(岡山空港)2人、広島空港出張所(広島空港)2人、松山出張所(松山空港)1人、大分出張所(大分空港)1人、対馬出張所(厳原港、比田勝港)3人
- クルーズ船に係る出入国審査業務の充実強化(入国審査官20人)
福岡入国管理局(九州エリア対応)10人、那覇支局(沖縄エリア対応)10人

- 迅速かつ厳格な上陸審査のためのセカンダリ審査業務の充実強化(入国審査官18人)
羽田空港支局(羽田空港)7人、千歳苫小牧出張所(新千歳空港)5人、那覇空港出張所(那覇空港)6人

水際対策
厳格な

- 偽変造文書鑑識体制の充実強化(入国審査官8人)
- バイオメトリクスシステム顔画像照合機能の活用強化(入国審査官6人)
- 海港における不法出入国対策の充実強化(入国警備官12人)
東京入国管理局4人、名古屋入国管理局8人

その他、難民認定手続業務(入国審査官12人)、退去強制手続業務(入国警備官23人)

入国管理局の物的体制の整備について

平成28年度概算要求等額

16,390百万円(2,309百万円増)



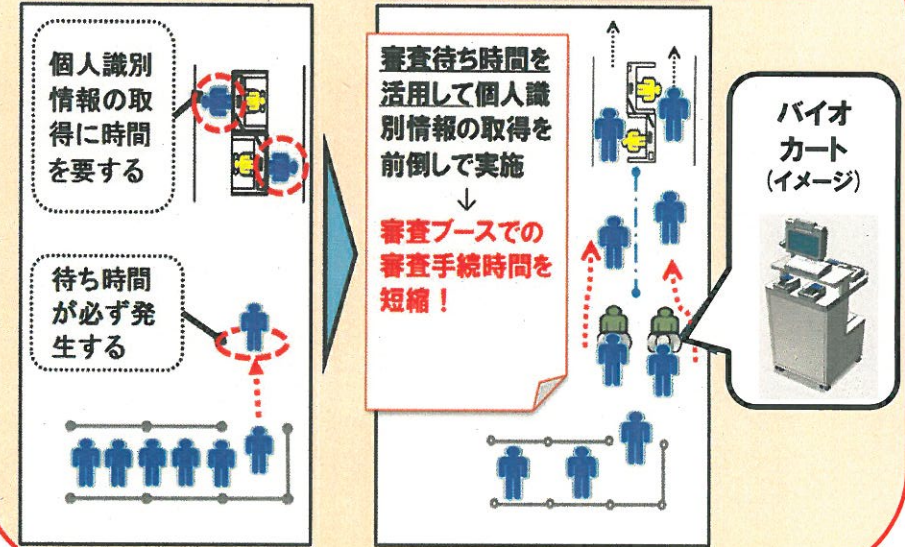
3,942百万円

出入国審査手続の円滑化・迅速化

- 空港における出入国審査体制の整備
審査ブースの増設及び空港施設拡張等に伴う審査端末機器の配備等
- 日本人出帰国手続への顔認証技術の導入
日本人の自動化ゲート利用者数の増加を図るため、顔認証技術を活用した自動化ゲートの導入に向けたシステム改修
- クルーズ船の上陸審査に必要な審査端末等機器の確保
クルーズ船の上陸審査手続を円滑化するための審査端末等機器の増配備
- 上陸審査場における個人識別情報の取得迅速化
- 審査ブースコンシェルジュの拡充
4大空港及び地方空海港における上陸審査手続の案内や誘導等を行う審査ブースコンシェルジュの拡充
- プレクリアランスの再開
プレクリアランスを再開するために必要となる、出発空港において個人識別情報を事前取得するためのシステム改修及び審査端末機器等
- TTP(トラステイド・トラベラー・プログラム)の導入【2か年計画2年目】
頻繁に来日する外国人のうち出入国管理上のリスクが低い者(トラステイド・トラベラー)を自動化ゲートの対象とするためのシステム開発等

現状

バイオカート導入後



1,356百万円

厳格な水際対策

- バイオメトリクスシステム顔画像照合機能の活用強化
- PNR(乗客予約記録)情報取得に必要な経費の確保
乗客予約記録(PNR)の電子的報告を推進するために必要な経費
- テロ対策強化のための偽変造文書鑑識機器等の整備
地方空海港の偽変造文書鑑識機器等の更新・拡充



外部関係機関等から提供されるテロリスト等の顔画像情報をサーバに取り込み、上陸審査時において取得した顔画像との照合を可能とする機能追加を実施すること等により、テロの未然防止対策に万全を期す

11,092百万円

- 出入国管理システムの維持経費等

クルーズ船の乗客に対する審査体制等について

人的体制等の整備

- ◆大型クルーズ船の乗客に係る上陸審査手続の迅速化のため、応援派遣要員を増員
 - ・平成25年度 福岡入国管理局 入国審査官 17人
 - ・平成26年度 東京入国管理局 入国審査官 6人
 - ・平成27年度緊急増員で措置された審査機動班(福岡入国管理局 入国審査官 10人)も、必要に応じてクルーズ船対応を行う
- ◆平成24年度以降、大型クルーズ船の乗客に係る上陸審査手続について、全国的な応援態勢の下で実施するため、地方入国管理局間で調整の上、必要な審査要員を応援派遣するよう指示
- ◆応援派遣に係る所要の旅費を確保

入国審査手続の円滑化

- ◆平成27年1月から、簡易な手続で一時的な上陸を認める「船舶観光上陸許可」制度の運用を開始

実績・効果

- 応援派遣実績(福岡入国管理局及び東京入国管理局の合計)
 - ・平成26年
204回 1,674人
 - ・平成27年1月から6月末まで
134回 757人

- 船舶観光上陸許可の運用状況
 - ・平成27年1月1日から6月末までのクルーズ船による入国者数(速報値)

外国人入国者数 320,176人
船舶観光上陸許可数 288,920人

- 船舶観光上陸許可制度導入前(平成26年)及び導入後(平成27年1月から6月まで)の審査時間等の比較※

(例)博多港

	乗客数	審査官数	審査時間(分)
導入前	1,642	12	151
導入後	2,585	12	94

(※)数値はいずれも乗客数1,000人以上の船舶における平均値

クルーズ船審査に向けての今後の体制強化等

- ☆クルーズ船入港数の急増を踏まえ、入出港に合わせて機動的に審査要員を派遣する体制を整備し、クルーズ船乗客に対する迅速かつ円滑な出入国審査の実現を図る
- ☆公海上のクルーズ船内で個人識別情報の提供を受ける海外臨船審査の実施に向けての検討